



# せいごう 聖郷小

【学校名】 琴浦町立聖郷小学校  
【所在地】 東伯郡琴浦町勤529

【校長名】 笠見宏子  
【児童数】 121人

【教育目標】 夢や希望を持ち、主体的に行動する子どもの育成  
【沿革】 平成26年4月、東伯小・古布庄小が統合して開校



6年生の授業研究会

## 積極的に考え、発言 国語の授業研究会

聖郷小は、国語の学習に力を入れて取り組んでいる。年間を通して、全学年が1回ずつ授業研究会をする。第1回の研究会は6年生が担当。東京都品川区の「言語教育振興財団」顧問 教育アドバイザーの奥水かおり先生を招いて、「イースター島にはなぜ森林がないのか」の題材で公開授業を行った。

集中して学習した6年生は、全員発表で意見を言いつつ、本年度の国語学習の中心となる取り組みは、説明文の学習だ。各学年とも説明を正しく読み取る学習を積んできた。

また、新しくタブレット型のパソコンが26台導入された。山形凛桜さん(6年)は「たくさんの人に私たちの授業を見てもらうことがあまりないので、見てもうえても良かった。みんなもたくさん意見を言っている姿を見てもらってうれしかった」と話した。(信組百愛、熊崎拓也、小代彪雅)

## 感動する劇目指して 学習発表会で人権劇

### 学習発表会で人権劇

毎年お世話になっている琴浦町のカウベルホールで昨年10月30日、「第6回学習発表会」が開かれた。全校児童が一丸となって準備や練習などに取り組んで、められた意味は三つある。一つは、歌や合奏、劇を堂々と披露する。二つ目は「感動」で、来場者に感動を届ける。三つ目は「感謝」で、見ている人たちに自分たちも感動できるようにスティージにする。

発表会は、感謝などを伝えるだけでなく、今までで学んだことを伝える行事だ。

6年生は、最後の発表会で人権劇「はだしのゲン」に取り組んだ。練習では、より良い劇にするために意見を出し合い、みんなで協力して劇を創りあげた。劇の最後は、「いのちの歌」を合唱し、大きな拍手が送られた。



人権劇で熱演する6年生

この劇や歌で平和の尊さや命の大切さを表現した。当日、会場は満席で立ち見もあり、来場していただいたたくさんの方々に感動してもらった。

主人公の弟役を熱演した杉嶋大明さん(6年)は「友だちと動きを考えたり、当時のことを考えたりするのは難しかったけど、みんなで協力して意見を出し合い、素晴らしい劇ができた。みんなには感謝しかない」と話した。(鈴木寧々、杉嶋大明、川崎涼奈)

# 6年生が作った新聞です

## 最後は心一つに 芝の校庭で運動会



声を張って応援合戦をする児童ら

第6回目の運動会が昨年5月25日、青々とした芝の校庭で開かれた。全校児童が運動会を成功させるために、日々練習を積み重ねてきた。当日は、その成果を発揮して全力を尽くした。

今年のスローガンは、「優勝は過去の努力の先にある」。運動会の目玉競技は、4・6年生

による「集団行動」聖郷魂」だ。全校児童による「赤白応援合戦」のほか、保護者や地域の皆さんと一緒に、全校児童が県指定無形民俗文化財の「三本杉の盆踊り」を披露。たくさんの方々に感動してもらい、運動会は大成功に終わった。

赤組応援団長の池沢悟さん(6年)は「練習では何度も失敗したが、最後にみんなと協力し大成功だったので良かった」と話した。

この運動会の素晴らしいのは、校庭の芝にも支えられている。鳥取県中部の芝は、新しい国立競技場(東京都新宿区)にも使われている非常に品質の良い芝だ。

聖郷小では、2010年に校庭に芝が敷かれた。運動会などでけがをしても怪しくなみ重ねてきた。当日は、その成果を発揮して全力を尽くした。

今年のスローガンは、「優勝は過去の努力の先にある」。運動会の目玉競技は、4・6年生

## 優しい心を育む 地域の人とふれあい



地域のお年寄りと交流する6年生

全校児童は学年ごとに、昔遊びや農業体験、昔の暮らし体験、郷土学習、介護予防教室参加など、地域の皆さんとさまざまな交流に取り組んでいる。

地域との交流は、校区内在住の方々の協力で実施。1年生は昔遊び。2年生は桑本慎吾さんとタケノコ掘り体験。3年生は餅つきなどの昔の暮らし体験や山田孝志さんと梨作り体験。4年生は琴浦町森藤の大法壇で山下紀男さんと郷土学習や、桑本慎吾さんと味噌作り体験している。

また、5年生は、同町内のこども園の園児と年間を通して交流し、田植えなど昔遊びや農業体験、昔の暮らし体験、郷土学習の1つとして介護予防教室に参加。高齢者と交流を深めている。この教室は、学習やゲームなどを行い、認知症を防ぐ取り組みだ。一緒に取り組むことで、お年寄りの優しさや温かさに触れた。

6年生担任の田中伸二先生は「交流することで、地域を大切にすることが育ち、大人になってもここに住みたいという気持ちを持てることができる」と笑顔で話した。

## 友だちの良い点は？ 仲良しの「聖郷の虹」

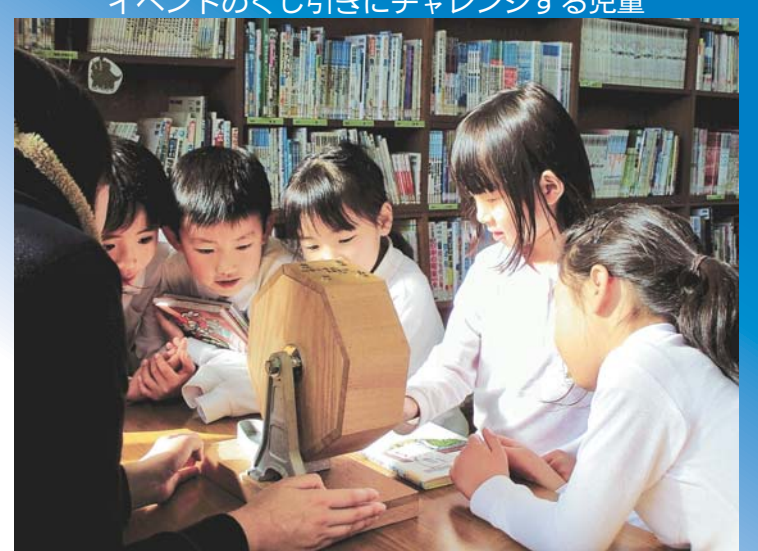
### 仲良しの「聖郷の虹」

聖郷小の玄関側左右の外壁には、大きな虹の絵が描かれている。さうに玄関に入ると、きれいな虹の掲示物が見える。これを「聖郷の虹」という。聖郷の虹は、友だちの良い点を見つけ、7色の紙に書いて張り、大きな虹をつくと、聖郷の虹に書いた内容は、お昼から6年生まで学年に関係なく昼休憩と一緒に遊ぶなど、全校児童が仲良く活動している。

真山織依先生は「全校が聖郷の虹の活動に取り組んでいる。これからは、お年寄りの優しさや温かさに触れた。6年生担任の田中伸二先生は「交流することで、地域を大切にすることが育ち、大人になってもここに住みたいという気持ちを持てることができる」と笑顔で話した。

友だちの良い点を見つけて作った聖郷の虹

## たくさん 読もう!! 図書館



児童に新聞に興味を持ってもらえるように工夫している。笠見宏子校長先生は「絵本室があり、たくさんの絵本に囲まれて、

聖郷小の図書館は、楽しく本を読むたくさんの児童でにぎわっている。聖郷小ができて6年たった今、図書館には1万冊以上の本がある。学習、歴史、社会、言葉など10種類のコーナーがあり、勉強や調べ学習にとても役立っている。これらの本をたくさん借りてもらうために図書委員会が活動している。いつもは本を2冊までしか借りることができないが、当たりが出る3冊まで本を借りられる券やオリジナルのしおりがもらえる「くじ引き」などの楽しいイベントも行っている。

また、毎日お昼の放送の時に朝日小学生新聞の記事を紹介して、



## あいさつ日本一へ 6年生がリードし運動

「おはようございます」。聖郷小の朝は、明るいあいさつで始まる。昨年度からあいさつ運動をスタートした。名付けて「笑顔ちょうだい・い・プロジェクト」。6年生が5年生の時に考えたプロジェクトだ。

笑顔で、ちょうだい声

6年生の川崎涼奈さんは「6年生がリードして全校のあいさつが良くなった。次は、5年生がリードして、もっと良くなって、あいさつ日本一に聖郷小にしてほしい」と話した。

(池沢悟、雪本和翔、竹中夢齋)